



平成27年11月25日 NO・81

〒311-1114 水戸市塩崎町1016
TEL029-269-2116 FAX029-269-3160
Mail tunezumi-j@magokoro.ed.jp

【ホームページで、カラー版が見られます】

学校を創るのは生徒。学校の主役は君たち。 君たちは、どんな学校を創るのか!?

○ 校内持久走大会が行われた。個々の目標は様々であるが、各自が全力をふりしほって走る姿は大変感動的であった。また温かい声援や伴走も学級の団結を感じさせてくれた。ただ表彰式で返事をしほい、又は聞こえない程小さい生徒が多かった点を非常に残念に感じた。誇らしい瞬間である。胸をはって大きな声で返事をしほい、学年学級で指導していきたい。

以前、君たちに「息流(いきる)」という話をしました。息という字は、「自らの心」と書きます。「自らの心」である、息をしっかりと吐く、例えば「ハイ」という返事です。しっかりと息を吐いて返事をします。そのような返事をすることで、**自らの心を示す**ことができます。また、「流」という字は、英語で言う「～ing」です。「～し続ける」という意味です。流れ続けるということですね。繰り返します。「**息流(いきる)**」という常中魂は、『自らの心にプライドをもって吐き続ける』ということです。生きる上での基本中の基本は、挨拶です。挨拶は、社会で生きていくための基本中の基本だからです。「息流」とは、**個性的に力強く「生きる」こと、集団の中に自分の力を「活かす(貢献する)」こと**なのです。常中を「生き生きとした集団」にするか、または「どんよりと、よんだ集団」にするかは、学校の主役である皆さん自身の選択によります。今、常中は一つの選択の時を迎えています。**挨拶がしっかりした学校と、挨拶がいい加減な学校。**皆さんは、どちらを目指しますか?

11月11日の先生たちの日誌です。
あなたは、この記述を読んで、何を考えるでしょうか。
また、下の友達の見解を読んでください。これからの常中をどうするかを決めるのは、**学校の主役である あなた方自身**です。
(※ まずは、自分の意見をもつところから始めてください。)

上記の日記を見た生徒の意見のうち、いくつかを載せます。

<p>Tさんの意見 確かに返事の声が小さかったと思います。自分も、もっと大きい声で返事をすべきだと思いました。せつかく足が速いという、よいところがあるのに、返事などの部分で自分を下げしてしまうのはもったいないと思います。</p>	<p>Sさんの意見 今回の持久走大会で、一点だけマイナスに思ったことがあります。返事の声が、すこく小さいと思いました。学年の代表で呼ばれているので、しっかりとした返事をしてほしいと思いました。代表で呼ばれている意識をもっとほしい、と思いました。</p>	<p>Nさんの意見 返事は、相手にきちっと聞こえる大きさを言うべきだと思います。でも、全体の前で大きな声で返事をするのは、実は恥ずかしいです。分かっている声小さくなってしまう。</p>	<p>Oさんの意見 皆の声が小さいと、自分だけ大きな声で返事するのは、なんだかイヤです。本当は、大きく返事をしたいのだけど、できませんでした。</p>	<p>Fさんの意見 常中は、返事がきちんとできる学校だと自慢したい。でも、まだまだ、だな。</p>	<p>Iさんの意見 みんなでやる、みんなで協力することが大切だと思う。みんなでやれば怖くない。でも一人でも自分に勝ってほしかったなあ。開会式の時〇〇君のように。</p>
---	---	---	--	--	---

